

令和5年度 学校関係者評価表

令和6年7月25日

学校名：名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校

1 学校目標			
・本学園の建学の精神である、社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、科学技術・文化の発展に貢献する。 ・知識・技術といった学生個々の能力を引き上げると共に、品格とホスピタリティ精神を兼ね備えた魅力ある人材を育成する。 ・「夢をかたちに」を実現する。			
学校自己評価報告書について			
	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
学校自己評価報告書基準	自己評価の結果が適切か	改善に向けた実際の取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
	4：適切な評価である	4：十分適切な取組みである	4：十分な効果が期待できる
	3：ほぼ適切な評価である	3：ほぼ適切な取組みである	3：ほぼ十分な効果が期待できる
	2：やや不適切な評価である	2：あまり適切とはいえない取組みである	2：あまり効果が期待できない
	1：不適切な評価である	1：適切とはいえない取組み	1：効果は期待できず、改善を要する
基準 1（教育理念・目標）	3.9	3.9	3.8
基準 2（学校運営）	3.9	3.9	3.8
基準 3（教育活動）	3.9	3.8	3.8
基準 4（学修成果）	3.7	3.5	3.2
基準 5（学生支援）	3.7	3.4	3.4
基準 6（教育環境）	3.8	3.8	3.8
基準 7（学生の受入れ募集）	3.8	3.8	3.4
基準 8（財務）	3.9	3.9	3.9
基準 9（法令等の遵守）	3.9	3.9	3.9
基準10（社会貢献・地域貢献）	3.9	3.7	3.7
基準11（国際交流）	3.8	3.5	3.3
今後の改善方策について			
・在校生保護者は、各コースごとに必要ではないでしょうか？ ・とても真摯に、誠実に取り組んでいらっしゃると思います。 ・今後は、大学との差別化（特に英語科）がますます必要になると思いますので、学生や保護者にそれをしっかり示し、その上で名外専の魅力をアピールすることが募集改善につながってゆくと信じます。 ・学修成果における退学率の低減については、学生のエンゲージメント向上につながる具体的な施策を、面談回数の増に加え考える必要があると思う。 ・昨今、若い方でメンタル不調が多く見受けられるが、学生時代からストレス耐性を高め、自らストレス軽減をする方法を身につけることで、社会に出てから活躍の場が広がると考えます。 ・日本の人口が少なくなる中、学生募集における広報活動の活発化と、大学との差別化を図り、英語力、ホスピタリティマインドに加え専門知識の取得を行うことが必要。 ・今後、更に増加するであろう留学生の受入れについて、日本国内の就職を目的とすると、日本語力向上を図るべく早急に体制の構築が必要。 ・品格とホスピタリティ精神をしっかりと教育していただきたいです。 ・退学率については、毎年要因特定について努めていただきたいと思います。 ・対外的な活動については、引き続き積極的に取り組んでいただきたいです。			